

### ■「湿原学習のための学校支援ワーキンググループ」について

- **背景・経緯** ・第21回釧路湿原自然再生協議会において、「第3期釧路湿原自然再生普及行動計画」が採択され、学校教育を対象として環境教育の推進主体である「環境教育ワーキンググループ」が終了したことから、新たに「湿原学習のための学校支援ワーキンググループ」を設置
- **設置目的** ・湿原学習における学校支援を効果的に進めるため、現場教員や学校教育の専門家、教育行政機関等との一層の連携を図ることが可能な体制の構築  
・総合学習や教科学習等の学校教育を通じた湿原の活用に向けて、効果的な支援方策の検討、取組みを実践  
・成果を踏まえた普及方策の検討
- **構成** ・再生普及小委員会委員長及び副委員長 ・学校教育行政機関、教員、北海道教育大学等  
・開催議題関係者(委員長判断により招請) ・事務局:再生普及小委員会事務局
- **取組み課題** ・湿原を題材とした学習素材の収集、活用の促進 ・湿原再生の学校教育への活用促進 ・学校教員の関心喚起、湿原の教育的な価値の普及

これまでの「環境教育ワーキンググループ」から(仮)湿原学習のための学校支援ワーキンググループに変更することが一番大きな変更点となる。これまでは学校教育の関係者が参加していなかったことで、学校教育とあまり密接な繋がりを持てなかった。そのため、教員が会議に出席可能な日程等の情報も無かった。ワーキンググループがより有効に機能するためには、教育委員会、学校教員、実際に子供と一緒に活動している活動団体の方たちに協力を依頼する。これまでの環境教育ワーキンググループは、社会教育の中での環境教育も視野に入れていたが、今後は切り離して考えていく。北海道教育大学釧路校の境准教授は専門が教育方法論であり、理科の教材開発が専門である。

社会科やそれ以外の科目の環境教育なども積極的に考えて必要に応じて人材を探したい。名称等を含めて、意見を伺いたい。  
中学校の社会と理科の教員参加についても考えていただきたい。  
標茶高校の先生は来ていただけないか。釧路市内の教員で作る環境教育の研究グループに中学校教員が参加していないか調べる。

委員長 委員 事務局

### その他

事務局より、平成26年度土木学会環境賞の受賞について報告が行われた。

### ■平成26年度土木学会環境賞を受賞

・「釧路湿原自然再生事業 茅沼地区旧川復元」の取組みが表彰された。

### 今後の予定

- 再生普及推進のための連携チーム会議を7月24日に予定している。
- 湿原学習のための学校支援ワーキンググループ会議を8月6日に予定している。

### 第25回 再生普及小委員会 出席者名簿(敬称略、五十音順)

#### 個人[6名]

- 木村 勲 ●君塚 孝一 ●清水 信彦 ●新庄 久志
- 高橋 忠一 ●鶴間 秀典

#### 関係行政機関[6機関]

- 国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 [治水課長/渡邊 和好]
- 環境省 釧路自然環境事務所 [所長/西山 理行]
- 林野庁 北海道森林管理局 [釧路湿原森林ふれあい推進センター 所長/網倉 和弘]
- 北海道 釧路総合振興局 [商工労働観光課長/安田 直樹]
- 北海道 釧路総合振興局 [観光振興係長/佐々木 貴光]
- 北海道 釧路総合振興局 [環境生活課 自然環境係長/高橋 克己]
- 釧路市 [商工観光係長/大中 公史]
- 標茶町 [企画財政課長/高橋 則義]

#### 団体[9団体]

- 釧路国際ウェットランドセンター [事務局長/菊地 義勝]
- 釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会 [芳賀 孝朋]
- 釧路シャケの会 [会長/小杉 和寛]
- こどもエコクラブくしろ [近藤 一燈美]
- 公益財団法人北海道環境財団 [事務局次長/久保田 学]
- さっぽろ自然調査館 [代表/渡辺 修]
- 特定非営利活動法人タンチョウ保護研究グループ [井上 雅子]
- 特定非営利活動法人EnVision環境保全事務所 [渡會 敏明]

#### 資料の公開方法

委員会で使用した資料および議事要旨は、釧路湿原自然再生協議会ホームページにて公開しています。  
[http://www.ks.hkd.mlit.go.jp/kasen/kushiro\\_wetland/index.html](http://www.ks.hkd.mlit.go.jp/kasen/kushiro_wetland/index.html)

#### ご意見募集

釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています。  
電話・FAXにて事務局まで御連絡下さい。

### 釧路湿原自然再生協議会運営事務局

[TEL]0154-23-1353 [FAX]0154-24-6839

# 釧路湿原自然再生協議会

# 再生普及小委員会 ニュースレター

編集・発行：釧路湿原自然再生協議会 運営事務局

REGENERATION SPREAD SUB COMMITTEE NEWS LETTER

Vol. 25

発行日：平成27年0月00日

## 平成27年7月10日(金)「第25回 再生普及小委員会」が釧路地方合同庁舎5階 第1会議室で開催されました。

### 開催概要

「第25回再生普及小委員会」が平成27年7月10日(金)釧路地方合同庁舎5階 第1会議室で開催されました。小委員会には個人6名、団体9団体、関係行政機関6機関が出席しました。今回は、再生普及小委員会の活動報告及び活動予定、新たに設置される再生普及推進のための連携チーム及び湿原学習のための学校支援ワーキンググループについて話し合わせ、活発な意見の交換が行われました。



エゾシカの道をたどって、凍った湿原を散策しよう～ヌマオロ川～

### Discussion about Regeneration of Kushiro Marsh

このようなことが話し合われました。

### 再生普及小委員会の活動報告

事務局より再生普及小委員会の活動報告が行われ、再生普及行動計画オフィスの取組みや環境教育ワーキンググループの取組みについて報告がなされた。

### ■再生普及行動計画オフィスの取組み報告について

#### ①行動計画の進行管理、活動支援

- 「ワンダグリンド・プロジェクト2014」情報発信、活動支援
- 「ワンダグリンド・プロジェクト2014」活動報告書作成
- 「ワンダグリンド・プロジェクト2015」活動募集
- フィールドワークショップの実施(2015年2月4日) 蛇行復元検討地であるヌマオロ川で直線河道と本来の自然河川の流れ、周辺の自然を観察

#### ②情報発信・普及活動の拡充

- WEBサイトの更新等
- メールニュースの配信、掲示
- 市町村広報誌、新聞等メディアへの情報提供
- イベント出展による情報発信等
- 現場見学会等市民参加イベントの開催計画等

### ■環境教育ワーキンググループの取組み報告について

#### ①教員研修講座の実施

- ・「体感!釧路湿原～授業での活用を考える」(2015年2月14日 参加者教員3名)の実施

#### ②モデル授業のWEBサイトへの掲載、周知活動

- ・釧路湿原を題材にした学習資料「大地のつくりと変化」をWEBサイトで公開、広報チラシを教員等に配付

#### ③流域圏の小学校、中学校、高等学校を対象としたアンケート調査の実施

- ・釧路湿原および釧路川を題材とした学習の実施状況の把握
- ・環境教育WGIにおいて作成した資料等の活用状況等の把握



エコ・フェアくしろ2015

REGENERATION SPREAD SUB COMMITTEE NEWS LETTER



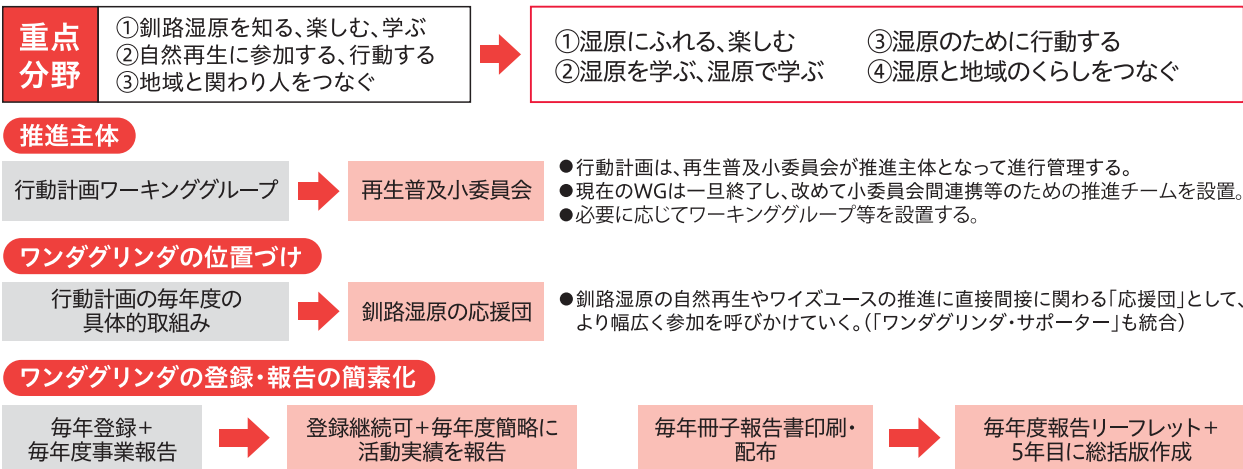
再生普及行動計画の改訂について

事務局より再生普及行動計画の改訂について報告が行われ、再生普及行動計画の見直しについて説明がなされた。その後、委員による意見交換と検討が行われた。

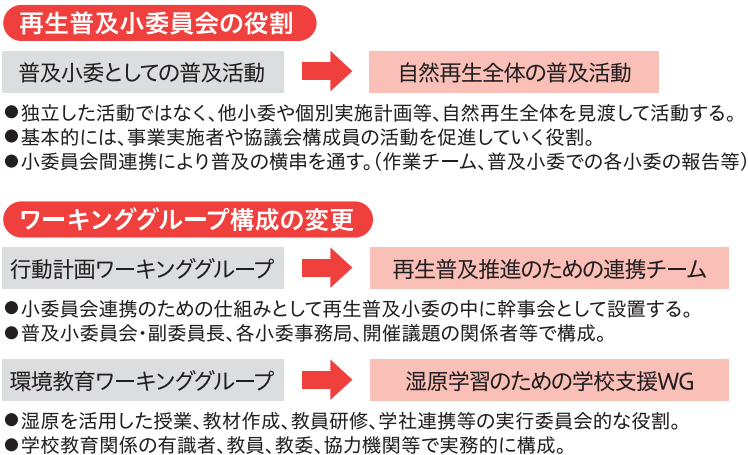
再生普及行動計画の見直しについて

- **背景** ・釧路湿原の社会・経済的価値や自然再生の意義が十分に知られていない  
・自然再生に参加する意義の明確化、参加者層の拡大が必要 ・地域産業との連携強化の要請が必要
- **目的** ・湿原のことを利害関係者に伝え、学びや参加の場づくり、支援をとおしてワイズユースに向けて行動する人を増やしていく  
・湿原を活用した環境教育や自然再生への参加が流域に根付いていくことが目標。
- **性格** ・自然再生を環境教育や市民参加のもとに進めるための横断的な指針であり、実施計画に準ずる役割をもつ。  
・(再生普及小委員会ではなく、)協議会全体の計画。 ・「できる者」が「できること」から原則に、目指す方向を示す。  
・「ワンダグリンド・プロジェクト」を通して誰でも参加できる。

第2期行動計画からの変更点



推進体制の強化



ワンダグリンド・プロジェクトの今後について

事務局よりワンダグリンド・プロジェクトの今後について報告が行われ、ワンダグリンド・プロジェクト2015」応募状況、「ワンダグリンド・プロジェクト2014」活動報告書の作成について説明がなされた。

「ワンダグリンド・プロジェクト2015」応募状況

・3月末よりホームページ、募集パンフレット等で募集を開始した。総数57団体、77取組、昨年とほぼ同数。新規応募5組。

「ワンダグリンド・プロジェクト2014」活動報告書の作成について

● 報告書の形式を簡略化 ・数頁程度のニュースレターに変更 ・今後は5年程度で1冊にまとめ製本

「再生普及推進のための連携チーム」の設置について

事務局より「再生普及推進のための連携チーム」の設置について説明がなされた。その後、委員による意見交換と検討が行われた。

「再生普及推進のための連携チーム」について

- **背景・経緯** ・第21回釧路湿原自然再生協議会において、「第3期釧路湿原自然再生普及行動計画」が採択され、第2期行動計画までの推進主体である「再生普及行動計画ワーキンググループ」が終了  
・今後、再生普及小委員会が行動計画の推進主体となることから、新たに「再生普及推進のための連携チーム」を設置
- **設置目的** ・釧路湿原自然再生全体構想(2015年3月改訂)に基づき、自然再生事業実施者が参画して再生普及小委員会の検討・協議事項に関する企画立案・調整等を行う。
- **構成** ・再生普及小委員会委員長及び副委員長  
・各小委員会事務局  
・開催議題関係者(委員長判断により招請)  
・事務局:再生普及小委員会事務局
- **取組み課題** ・自然再生の普及のための効果的な情報発信  
・自然再生の環境教育への活用促進  
・自然再生への地域・市民の参加の促進  
・釧路湿原自然再生協議会基金の活用促進



- 毎年少しずつ増えている寄付からなる基金に関しては、有効利用し利用報告を行う義務がある。積極的に推進チームで考え、2月若しくは3月に開催予定の釧路湿原自然再生協議会で提案したい。
  - このチームは、各小委員会と連携して情報の収集・普及の検討をするという性格のものではないかと思う。そう考えると、基金については、他の委員会はあまり関係なく、再生普及小委員会そのものが考えるべきテーマで、推進チームの課題からはずした方がいいのではないか。いまだだが、チーム名も委員会間連携が明確になる方が良かったかもしれない。
  - 基金に関しては再生普及小委員会で検討した方がよい。
  - 推進チームの名称について、「推進」、「連携」の両方を入れるのはどうか。
  - 連携を推進させるのではなく、行動計画を推進するために連携するチームなので、「推進連携チーム」が適当である。
  - 漢字ばかり並ぶのはどうか。
  - 名称は平仮名混じりが良い。これまでの進め方では市民から隔離されてしまうと感じている。
  - 市民参加に繋げることが課題であり、努力すべきことである。
  - 再生普及小委員会の横断的な活動や指針をつくるため、活動を推進する連携チームは非常に重要な役割を果たすので、名称は分かり易い方がよい。
  - 名称は短い方がよい。「再生普及推進連携チーム」でどうか。
  - 「湿原学習のための学校支援ワーキンググループ」と合わせ、「再生普及推進のための連携チーム」が良い。
  - 名称は「再生普及推進のための連携チーム」と決定する。
- 委員長 委員 事務局